

# 本 編



## 第1部 研究の目的、必要性

### 第1章 研究の背景・必要性

我が国の産業競争力を強化していくために、産学官の英知を結集してスピード感をもってイノベーションを効率的に進め、発明の創造・保護から市場展開に至るまで時代に対応した知財戦略の実行を図っていくことが求められる。

大学には創出した知的財産を産業界に移転してイノベーションの促進につなげる役割が期待されており、諸施策が講じられ、知的財産管理・活用体制等の整備は一定程度進んだところである。しかし、大学を取りまく環境の変化に伴い、大学の知的財産活動に関する課題も不断に生じ続けている。そこで、特許庁の専門的見地から産業財産権を巡る情勢を的確に捉え、大学の知的財産活動に関する諸課題を集約して研究を進め、大学等研究者を含む産業財産権制度ユーザーにとって実践的な研究成果を取りまとめることにより、産業財産権制度・情報の戦略的な活用を推進していくことが必要である。

近年の大学の特許出願状況からすると、地方・中小規模大学<sup>15</sup>においても知財活用の意識は高まってきたものと言えるが、特許出願件数で上位30大学のうち大半は都市部の大規模な大学のみである(表1-2-1)。他方、特許権実施等件数及び実施料収入<sup>16</sup>上位30大学では地方・中小規模大学も多数見られ(表1-2-2)、大学の特徴や強みを活かした知財活動を反映した結果と思われるものの、その活動の実態は明らかになっていない。

加えて、大学に適した知財活動は、研究成果を単に特許出願するだけでなく、

- ・その大学の規模や特徴
- ・地理的な配置
- ・大学経営における産学連携の位置付けなど

によって異なり、本来多様な取り組みがあり得るはずである。適切な戦略を取らなければコスト負担が増加するばかりである。特に、資金や人員において制約が大きい地方・中小規模大学においてはそれが顕著なものではないかと思われる。

### 第2章 研究の目的

本研究では、地方・中小規模大学における知財活動の実態を把握するとともに、大学の特徴を活かした取り組みの調査を通じて優れた事例を収集・分析し、地方・中小規模大学に適した知財活用の在り方を検討するための基礎資料とする。また、広く大学等に周知することにより、大学による適正な制度の活用が見込まれることに加え、各大学の特色を生かした効果的な知的財産制度の活用へ向けて、各大学の知財活動が飛躍的に改善されることが期待される。

<sup>15</sup> 本研究においては、地方の大学や中堅規模の大学を以降、「地方・中小規模大学」と表記する。具体的には、都市部(政令指定都市、東京都内)かつ大規模(在籍学生数が2,000人以上)な大学を除く大学とする。

<sup>16</sup> 文部科学省「平成21年度大学等における産学連携等実施状況について」より

表 1-2-1 2009 年度大学別特許出願件数（上位 30 大学）

通し No	大学名	特許出願件数
1	東京大学	534
2	東北大学	488
3	大阪大学	409
4	東京工業大学	397
5	京都大学	371
6	名古屋大学	308
7	九州大学	270
8	北海道大学	266
9	慶應義塾大学	217
10	広島大学	185
11	大阪府立大学	171
12	信州大学	162
13	日本大学	138
14	名古屋工業大学	125
15	東京農工大学	124
16	岡山大学	115
17	九州工業大学	114
18	筑波大学	114
19	千葉大学	114
20	東京理科大学	105
21	長崎大学	103
22	神戸大学	93
23	熊本大学	91
24	近畿大学	91
25	横浜国立大学	90
26	山口大学	85
27	長岡技術科学大学	83
28	早稲田大学	76
29	豊橋技術科学大学	76
30	静岡大学	72

備考：表中ハッチは、「地方・中小規模大学」を示す

出典：文部科学省 HP 平成 21 年度大学等における産学連携等実施状況 特許関係実績（機関別）

表 1-2-2 2009 年度大学別特許権実施等収入（上位 30 大学）

通し No	大学名	特許権実施等収入（千円）	参考：特許権実施等件数
1	東京大学	89,941	1,462
2	名古屋大学	71,655	125
3	日本大学	67,078	270
4	京都大学	65,432	70
5	大阪大学	60,167	180
6	慶應義塾大学	31,030	270
7	東北大学	30,180	242
8	信州大学	30,051	54
9	奈良先端科学技術大学院大学	29,973	137
10	東京工業大学	27,819	368
11	大阪府立大学	20,496	21
12	関西学院大学	20,000	19
13	富山大学	18,527	22
14	熊本大学	17,645	13
15	広島大学	15,600	273
16	金沢大学	14,981	84
17	埼玉医科大学	14,219	7
18	東京医科歯科大学	13,978	15
19	北海道大学	13,669	195
20	岡山大学	12,616	84
21	名古屋工業大学	11,354	65
22	徳島大学	8,927	50
23	愛媛大学	7,560	9
24	金沢工業大学	7,554	47
25	山梨大学	7,164	15
26	長崎大学	7,042	23
27	聖マリアンナ医科大学	6,972	11
28	北里大学	6,841	7
29	早稲田大学	6,736	20
30	岐阜大学	6,362	37

備考：表中ハッチは、「地方・中小規模大学」を示す

出典：文部科学省 HP 平成 21 年度大学等における産学連携等実施状況 特許関係実績（機関別）

### 第3章 本研究における用語定義

本研究では、「知財活動」「知財活用」「知財戦略」の各用語を、表 1-3-1 の用語定義に従い利用する。

表 1-3-1 本研究における用語定義

用語	用語定義
知財活動	知的財産の創出、保護、活用（発明の創造・保護から市場展開）に至るまでの一連の行動。
知財活用	知的財産を産業界に移転してイノベーションの促進につなげる行動。 研究成果を知的財産権制度の利用などを通じて、効果のあるように使うこと。 即ち、研究成果が産業界に使われること、製品化されて市場に出ること。
知財戦略	大学が理念や目標を達成するために、知的財産の創出、保護、活用に関する取組について、中長期的視点で資源（資金、人員など）を総合的に運用する計画・考え方。

### 第4章 研究実施方法

本研究は、「研究の目的」部分で示したとおり、地方・中小規模大学における「知財活動」の実態を把握するとともに、大学の特徴を活かした取り組みの調査を通じて優れた事例を収集・分析し、地方・中小規模大学に適した「知財活用」の在り方を検討するための基礎資料とすることを目的に実施するものである。

当該目的に対し、本研究では、図 1-4-1 に示す研究実施フローに基づき、大きく3段階で研究を実施する。

「1. 地方・中小規模大学における知財活動の実態」では、まず、地方・中小規模大学約100大学について、文献調査等に基づき知財活動の現状を把握する（※）。収集した情報等をもとに、地方・中小規模大学を類型化・分析する。

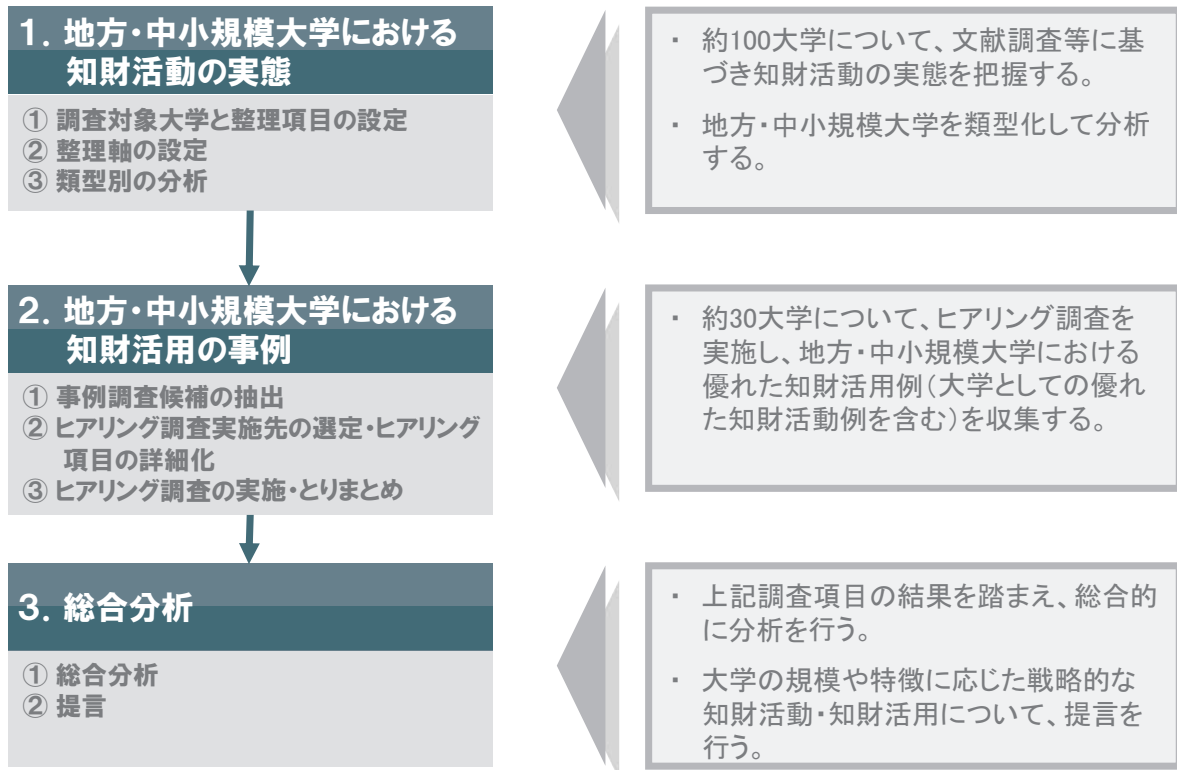
（※）例えば、以下に示す各大学の基礎情報。詳細については後述。

- ・学部構成、研究者数、特許出願件数
- ・共同研究実績件数、共同研究実績受入額、受託研究実績件数、受託研究実績受入額
- ・知的財産ポリシーの設定状況、等

「2. 地方・中小規模大学における知財活用の事例」では、上記「1.」の類型化・分析結果をもとに、地方・中小規模大学における優れた知財活用例（大学としての優れた知財活動・取り組み事例を含む）をヒアリング調査を通じて情報収集・整理する。

「3. 総合分析」では、上記「1.」「2.」の結果を踏まえ、大学の規模や特徴に応じた戦略的な知財活動・知財活用について提言を行う。

図 1-4-1 研究実施フロー



研究を進めるにあたっては、専門的な視点から検討・分析を行うため、専門分野の異なる複数の有識者から構成される研究会を設置した。研究会は、計3回実施し、各回において主に以下の検討を行った。

- ・ 第一回研究会：調査研究方法等の確認方向性検討  
(調査研究の進め方・アウトプット、ヒアリング候補先・観点等について)
- ・ 第二回研究会：中間報告・総合分析内容検討  
(文献調査結果、ヒアリング進捗報告、総合分析・とりまとめ方針等について)
- ・ 第三回研究会：とりまとめ・最終報告書案検討  
(総合分析・とりまとめ、最終報告書案について)

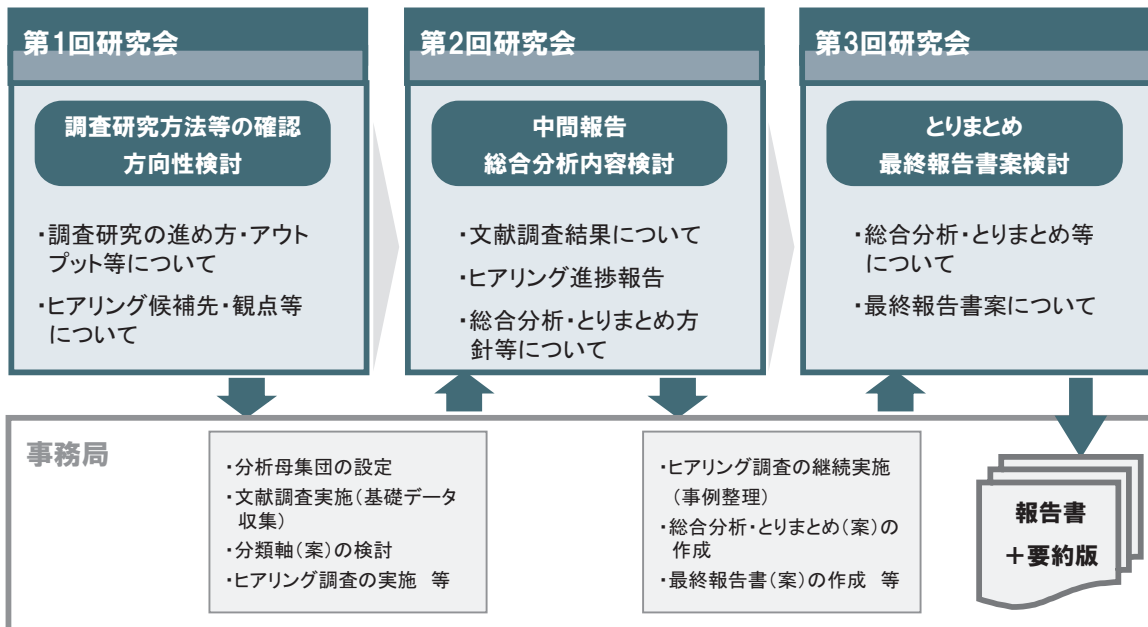
研究会による検討の流れを図 1-4-2 に示す。

図 1-4-2 研究会による検討の流れ

**研究の目的・必要性**

- 大学に適した知財活動は、研究成果を単に特許出願するだけでなく、その大学の規模や特徴、地理的な配置、大学経営における産学連携の位置づけなどによって異なり、本来多様な取り組みがあり得るはずであり、適切な戦略をとらなければコスト負担が増加するばかりである。特に、資金や人員において制約が大きい地方・中小規模大学においてはそれが顕著なものではないかと思われる。

⇒ 地方・中小規模大学における知財活動の実態を把握するとともに、大学の特徴を生かした取組の調査を通じて優れた事例を収集・分析し、地方・中小規模大学に適した知財活用の在り方を検討するための基礎資料とする。



本編

第1部

第2部

第3部

第4部